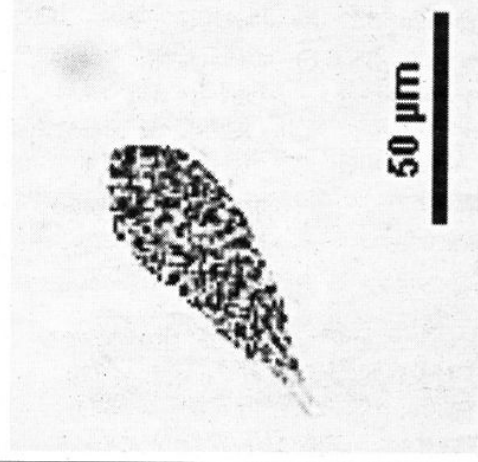


くしきと一年の夏
 季に有明海、橘湾で発生
 した魚介類を殺す有害植
 物プランクトンの一種、
 シヤトネラによる赤潮
 は、有明海湾口部や橘湾
 沿岸に点在する魚類養殖
 場でハマチやマタイなど
 を中心に大量死を引き起
 こした。このような漁業
 被害を発生させないため
 には、広域かつ迅速にシ
 ヤトネラの分布状況を把
 握し、早急に有効な防除
 対策を行う必要がある。
 総合水産試験場では、
 10年のシヤトネラ赤潮発
 生時に「調査船「ゆめと
 び」を使って橘湾で広域
 調査を実施し、水温や塩
 分、植物プランクトン量
 の目安となるクロロフィ
 ル蛍光値の広域分布状況
 を調べた。その結果、湾
 内に周囲と比べて塩分が
 低くクロロフィル蛍光値
 が高い水塊が存在してい
 ることが分かった。顕微
 鏡でその水塊に含まれる
 植物プランクトンを調べ
 たところ、多量のシヤト
 ネラが含まれていること
 を確認した(調査結果の
 図参照)。



橘湾のシヤトネラ赤潮



県総合水産試験場

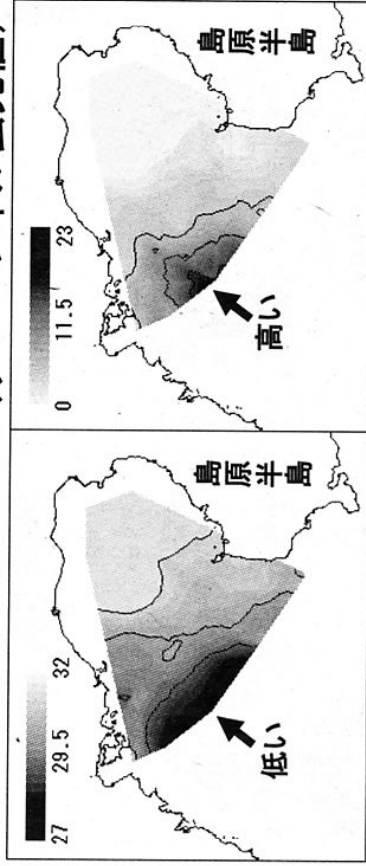
北原 茂
きたはら しげる



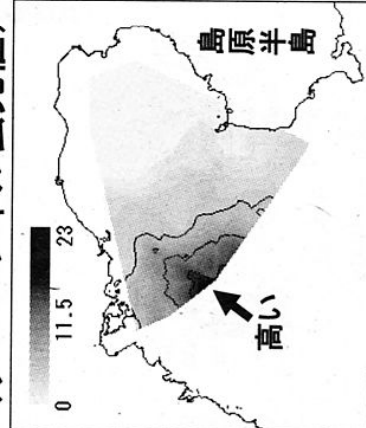
環境養殖技術開発センター 漁場環境科 主任研究員

橘湾では通常このよ
 うな低塩分の海域が存在し
 ないことや、調査前の有
 明海、橘湾のシヤトネラ
 発生状況および気象や潮
 流データ等の解析結果か
 ら、有明海南部海域で発

(塩分)



(クロロフィル蛍光値)



2010年7月20日の橘湾広域調査結果

塩分が低い水塊 (色が濃い部分) とクロロフィル蛍光値が
 高い水塊 (色が濃い部分) が重なっている。

有明海含む広域調査必要

生じていたシヤトネラ赤
 潮が、大雨や潮流の影響
 で有明海から橘湾へ流入
 したために出現した可能
 性が高く、それが養殖場
 での漁業被害につながっ
 たと考えられた。
 有明海全域や橘湾沿岸
 では、多くの関係機関に
 よりシヤトネラ発生状況
 の定点調査が行われてい
 る。今後は、これらの調
 査と連携して、橘湾だけ
 でなく有明海南部海域も
 含めた広域調査を行うこ
 とで、シヤトネラ赤潮の
 有明海から橘湾への流入
 状況を詳細に明らかにす
 るとともに、有効な防除
 対策について検討し、シ
 ヤトネラ赤潮による漁業
 被害軽減につなげたい。